

## 幼稚園・保育所に対する調査結果

( ) 内は件数

	就学前施設 園長	就学前施設 主任保育士	就学前施設 職員・教諭
問3 幼児期に身につけておくべき「生きる力」について気になることはありますか。 ①生活面について	<ul style="list-style-type: none"> <li>・寝る時間が遅くなったことにより、睡眠時間が少なく、朝起きることができない。(5)</li> <li>・睡眠の重要性を親が認識し、子どもが睡眠不足にならないよう早寝の習慣を身に付けさせる。</li> <li>・保護者の基本的な生活習慣(食事・睡眠・清潔など)の低下が見られる。(2)</li> <li>・アレルギー児が増えてきている。(4)</li> <li>・お箸の持ち方について気をつけていますが、親子で一緒に食事する機会が少ないのか、身につかない子どもが多い。</li> <li>・衣服の着脱や後片付けは、時間のかかる子ども、うまく速くできる子どもなどさまざまで一人ひとり違うが、時間がかかる子どもは手伝っている。(2)</li> <li>・生活面として、身につけておくべきこととして、保育園の子ども達は幼い時から親から離れて園に預けられるので、自分で生きる、考える、やってみようという力が強いと感じる。自分で、という場面が多いので生活の中で自立することが早いと感じる。</li> <li>・食べ物で、好き嫌いの多い子どもが多い。</li> <li>・おむつが外れるのが遅いのは感じますが、必要以上に保護者を焦らせないように気をつけています。</li> <li>・2歳児クラスの食事のマナー、好き嫌い、おもちゃの貸し借り等を見ていると、就園前の時期に保護者が適切に叱ることをせず、「いけないこと」だと学習しないまま集団に入ってしまうトラブルを起こすパターンが増えているように思えます。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・大人の生活リズムになってしまっていて、遅寝・遅起きの子が目立っている中で生活習慣の自立が遅く、自ら考えて行動ができない子も見られる。(8)</li> <li>・アレルギーの子が増えている。(4)</li> <li>・自分の思っていることを相手に伝えることができる。</li> <li>・身の回りの清潔については子どもの髪の毛を結んでこなかったり、季節感なく冬場でも薄着や足が見える短いショートパンツをはかせるなどもある。子どもにあまり手をかけていないように見える。</li> <li>・幼児期となり少しずつ自分の身の回りのことができるようになるが、なかなか自分からしようとせず、必ず言葉をかけられたり、手助けの必要な子どもおり、家庭で全て親にやってもらっている様子も見受けられる。</li> <li>・偏食の子もいて、野菜だけでなくフルーツもバナナしか食べない子もいる。</li> <li>・家庭が大人中心なのか、一人っ子など親の夜型により朝ゆっくりで昼に体を休ませることができないなどある。</li> <li>・保護者が子育てについてわかっていなかったり、人任せ、保育園任せにする傾向があるので、生活面全般で気になる子どもが増えていると思います。</li> <li>・食事では食材の少なさを感じる。離乳時期にいろいろな食材の経験が少ないことと、日頃の家庭での食事の様子から食べているものが限られている。</li> <li>・親が朝食を食べないので、朝食をしていない子もいる。</li> <li>・好き嫌いは少しずつ克服してくる子どもが多い。</li> <li>・姿勢について保持できず年長児になっても前かがみなど姿勢の悪い様子が気になる。(2)</li> <li>・排泄面は保護者により意見がわかる。3歳以降になり、子どもの意識が強くなり外ににいく子もいる。</li> <li>・着脱については子どもの意欲はあるが、補充が不十分で意欲に欠ける子がいる。保護者の意識によると思う。</li> <li>・汚れることを嫌がる子がいる。・鼻水が出ていても自分で拭こうとしない。</li> <li>・食事でも個人差がある。家で食べていない物が給食で出ることも多く、食べず嫌いな子もいるが、少しずつ味にも慣れ、みんな食べられるようになる。</li> <li>・離乳食の時期、方法が適切でない。発達に見合った進め方をしていないので、いつまでも柔らかいもの、ドロツとしたものを食べているので咀嚼する力、嚥下する力が育っていない。</li> <li>・親が朝食を軽く済ます傾向が強く、朝食をしっかり食べる習慣が減り、パンと飲み物で済ませられている子どもが多く、フォーク、箸を持つ機会が奪われている。そのため箸への移行がかなり遅くなってきている。(2)</li> <li>・排泄については保育園で進めていくので問題はないが、夜間のオムツはずれが年々遅くなっているように思う。極端な場合、就学前にはずれば良いと思っている親もいて、まずは親教育だなと思う場面があちこちで感じられる。</li> <li>・座って食事ができない、食事に興味がないお子さんが増えているように感じる。家での様子を聞くと、席についている時間が短い、少しでも食べさせたいという親心より遊んでいる場所に行き口に入れてあげる状態とのこと。</li> <li>・体を使う活動をすると疲れたと訴える子どもが多い。外遊びが少ない、車での移動に原因があるのかと思われる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・就寝時間が遅い。</li> <li>・オムツの外れる時間が遅くなった。</li> <li>・生活リズムの乱れ(起床・朝食・登園・夕食・睡眠)の改善。</li> <li>・食事については偏食、アレルギー、適切でない離乳食、座って食べられない、孤食の改善。(4)</li> <li>・落ち着いて食事をするのができない。3回の食事を楽しく美味しく食べる事が必要だと思う。食べ方、姿勢など家庭で教えられないので、園の1回の食事だけでは身に付けられない。</li> <li>・家庭で食事の習慣がなかったり、朝食を抜かしてくる子どもが多かった。早寝・早起き・朝ごはんの大切さを伝えたい。</li> <li>・アレルギーの子が増えているのが気になる。(4)</li> <li>・生活面すべてにおいて家庭での働きかけが弱い。</li> <li>・食事のマナー。</li> <li>・身の回りの整理が苦手な子どもが多い。</li> <li>・衣服の乱れをあまり気にしない。</li> <li>・食器に食べ残しがあっても気にならない。</li> <li>・生活習慣が身につけていて、何でも自分のことは自分でできるようにしておくことが大切だと思う。やりすぎてしまうか、放任の親が多い。</li> <li>・親の都合で夜遅くまで連れまわしたり、寝る時間が遅い子どもも多い。そうすると午前中ボーっとしてしまう。</li> <li>・手洗いの仕方が、水をつけてすぐ終わりにする子どもが多く、手の細かい部分まで洗えていないと感じました。</li> <li>・給食で見慣れないメニューがあると食べようとしないうちが多かったです。</li> <li>・偏食、好き嫌いが多い。</li> <li>・おむつが外れる時期が遅い。</li> <li>・生活習慣の中で子どもができることを親がやってしまう。(衣服の着脱など)・大きい姉や兄がいると上の子に合わせた生活リズム(遅型)になりがち。早寝早起き時間通りの規則正しい生活ができない子どもが多い。</li> <li>・偏食、好き嫌いが多く、家庭での意識が低いように感じる。</li> <li>・起床、就寝など、生活リズムが整っている子とそうでない子の差が大きい。(兄弟がいる子、父親の帰宅が遅い子は、就寝が遅い子どもが多い)</li> <li>・おむつのとれる時期が遅い。</li> </ul>
まとめ	<ul style="list-style-type: none"> <li>・保護者の生活習慣の乱れなどにより、子どもの就寝時間の遅延化及び睡眠時間の縮小、身の回りの整理整頓が苦手、偏食の増加など、保護者の原因により、子どもが悪影響を受けているという回答が多くみられた。また、アレルギーの子どもが増加するという回答も多く見られた。</li> </ul>		

	就学前施設 園長	就学前施設 主任保育士	就学前施設 職員・教諭
問3 幼児期に身につけておくべき「生きる力」について気になることはありますか。 ②人とかかわる力について	<ul style="list-style-type: none"> <li>・いろいろな友達と関わって遊ぶことができる。また、老人ホームなどを訪問しているのでお年寄りとの交流もできる。</li> <li>・親子の関わりは少なくなってきた反面、親同士はライン等でつながりが深くなっている。</li> <li>・園では異年齢児と一緒に活動する場を多く設けている。</li> <li>・三つ子の魂百までと言われていいますので、2～3歳児のいろいろな行動に対してひとつずつ大人が教えていく必要があります。その年齢の関わりで思いやりや約束、ルールを理解して人と関わる力ができてくることと思う。一年ごとに集団の中での過ごし方が身につくように保育園で対応していきたいと思います。</li> <li>・人の話を聞くことができること、自分の思っていることが言えること。</li> <li>・友達と一緒に遊びをつくり出す中で、新たなルールをつくったり、自分たちで考えたルールを守りながら行動経験する。</li> <li>・けんかして自分の思い通りにならないと怒っている。友達と仲良くなるまで時間のかかる子どもがいる。生活していく中で、相手の気持ちもわかって、約束を守ったり、ルールを守ったりできるようになる。</li> <li>・兄弟姉妹が少ないので、けんかや約束などルールを自然に学ぶのが難しくなっている気がします。</li> <li>・言葉が少ないと自分の気持ちを伝えることは難しい。言葉を持たせようとする大人の言葉をちゃんと「聞く」子は言葉を覚えて体得しているように思う。また親がどれだけ言葉をかけているか、また親が外でいろいろな人との交流の場で、どのようなあいさつや関わりをしているか、だと思う。(2)</li> <li>・自分以外の友達がいるということがわかる。</li> <li>・小学生に比べて、圧倒的に素直で、かつ大人の言うことをよく聞く。</li> <li>・約束やルールの意味はわかっているかどうかは別として、大変よく守る。</li> <li>・普通に集団生活を送れる子の保護者は、適切な声掛けができていたり、就園前に子育てサークルに参加していたりとそれなりに意識をもっている方が多いです。かかわる力が弱い子は、保護者が放任だったり、集団に慣れていなかったりしていることが多いです。平均化すると昔と変わりませんが、昔と比べ両極端化しているように感じます。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・子ども一人ひとりを見てみると、どの子にも優しい面があり、約束やルールを守る姿もあります。あいさつも園内の職員にはできないが、散歩に出かけると知らない人には大きな声であいさつをしている子どももいます。</li> <li>・年齢の小さい時は、親や保育士との関わり、ふれ合いの安定した関係から始まり、大きくなることで保育士を介して友達に興味をもち、一緒にいる、関わるということが人との繋がりへの第一歩と思う。円滑に関係をもち、一緒に遊び約束を守って友達と遊ぶ中でも、どうしても自分がという気持ちの強い子がいる。</li> <li>・相手を思いやる気持ちに乏しい子が多いかと思います。集団生活を送る上でのさまざまなルールを見につけられず育っていきってしまうことが気になります。(2)</li> <li>・周りのことがわからず、自分だけよければいいという考えや行動をする子が増えた。</li> <li>・話の意図を汲み取れず勝手な解釈をしている子も多くいる。</li> <li>・3歳くらいから積極的に友達を求めようとする子が多く、折り合いをつけられる子もいるが、反面自己主張が強く曲げられない子や、友達関係を見守れず心配する保護者もいて配慮が必要。</li> <li>・会話がゲームの世界中心で一方向的に伝え満足する子もいるので、バランスが大切かと思う。</li> <li>・個々の性格はあるので、ひとつの流れからけんかに発展することはあるが、それも成長の過程と感じます。各年齢でしっかり育っていると感じます。</li> <li>・自我が強い子が多く、思い通りにならないとけんかになるのでその都度仲立ちをしている。また、すぐにかつとなり手が出てしまう子も多い。集団生活をしていくうちにどうしたら仲良く楽しく遊べるか、相手の思いも受け入れられるようになり、約束を守る大切さも理解できるようになる。</li> <li>・保育園に通園している子は、子どもたちの中で育ちあっていくので比較的思いやる心が育ち、約束やルールを守りながら集団生活を楽しくしている。時々人の話が聞けない、自己主張ばかり通そうとする場面も見られるが、保育士が手助けし話し合いをすれば理解できる子が多い。</li> <li>・自分の気持ちを相手に伝える事が苦手な子が増えているようです。「コミュニケーション能力」が低く、「おもちゃの取り合い」や「物事の順番を待つ」という際、相手に言葉でうまく伝えられず、手が出てしまったりする様子が見られます。但し、これらの事は、入園後、集団生活を送っていくなかで、日々学び、成長していきっていると思われれます。</li> <li>・初めて集団生活に入った子どもたちに仲良く、譲り合うのは難しい。しかし、保育を進めていくうちに身に付くべきであることがなかなか実を結ばない。自分をやたらに主張し、手足が出る子が多い。その都度話しているが、一人っ子が多く、家ではそういう場面がないせいなのかとても時間がかかる。</li> <li>・人(友達)と関わろうとしない子も増えてきている。一人遊びが好き、というより関わりたくないという感じ。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・自分の思いをうまく人に伝えられない。</li> <li>・我慢する力が不足している。</li> <li>・友達と一緒に遊べない子の増加。</li> <li>・集団生活を送ることで友達の存在に気付き、相手の気持ちを知る機会がもてる。遊びの中でルールや方法を理解する。自分で考える力を身に付ける。</li> <li>・自分の思いを伝え、相手の意見にも耳を傾けられる力が大切だと思う。自分の思いばかり伝えて相手の話を聞けなかったり、自分の思いを伝えられず、相手の言いなりになってしまう子が多く、繰り返して伝えた。</li> <li>・子どもたちが子どもらしく育つには、大人の影響力が大きいと思う。身近な大人が落ち着いていれば(精神状態)子どもはよい方向へ進むと思う。</li> <li>・子ども中心の家庭環境のためか、自分中心の考え方や振る舞いをする子が多い。集団生活を通じて人のかかわり方を身に付け、改善している様子が伺える。</li> <li>・自分のことだけでなく、相手の話も聞こうとする。</li> <li>・成長の途中なので、この時期にさまざまな友達とかかわり、けんかや約束を守ることなど、とにかくたくさん経験することが大切だと思います。</li> <li>・注意されると逆ギレしてしまい、素直に話が聞けない。言葉遣いが乱暴すぎて友達を傷つけてしまうなど、友達との関わり方に問題がある子が増えた。</li> <li>・親とのかかわりの薄い子も多い。友達と仲良く遊べて優しく接することができるよう、あいさつもとても大事だと思い指導している。</li> <li>・集団生活なのでけんかやトラブルはありますが、仲良く遊んでいます。</li> <li>・なかなか輪の中に入っていけない子を誘ってあげたり、わからないことを教えあったりする力がありません。</li> <li>・泣いている友達がいると「どうしたの」と声をかけたり、その友達の頭をなでてあげたりする子が多かったです。</li> <li>・登園してきて「おはよう」と声をかけてもあいさつを返さない子が多いように感じました。</li> <li>・子ども同士のかかわりも大切だが、大人の言葉がけや援助により、感謝の気持ちや思いやりなど身に付けていくことができると感じています。</li> <li>・返事をしない子どもが増えた。</li> <li>・主張ができ、けんかもあるが自分たちで解決・仲直りできる。</li> <li>・自分より小さい子に対して思いやる気持ちをもったり、気遣いができる。</li> <li>・公共施設(児童館・子育てサークルなど)を積極的に利用している子どもは社交的な子が多い。</li> <li>・自分の思っていること、手伝ってほしいことを言葉で伝えられない。</li> <li>・園以外での友達と遊ぶ機会が少ない家庭がある。</li> </ul>
まとめ	<ul style="list-style-type: none"> <li>・我慢する力の不足、自我が強い、素直に話が聞けない、友達と一緒に遊べないなど、集団生活を送る上での様々なルールを身に付けられていない子どもが増えているという回答が多数見られた。</li> </ul>		

	就学前施設 園長	就学前施設 主任保育士	就学前施設 職員・教諭
<p>問3 幼児期に身につけておくべき「生きる力」について気になることはありますか。</p> <p>③学ぶ力をつけるために大事だと思うこと</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・人の話（相手の話）を聞くことは大切だが、全体に声をかけても自分のことと思っていない子も多いので、今後気に向け、繰り返し伝えていく必要がある。</li> <li>・今のクラスの子どもたちはいろいろなことに興味をもち、疑問に思ったことは保育士に聞いたり、本や図鑑で調べるなどしていたので、これらのことは大切だと感じる。</li> <li>・何事にも「なぜだろう」と思う気持ち、疑問点を先生に質問する。</li> <li>・人の話を聞いてわかる、自分で人にわかるように話す等、静かに耳を傾け頭の中でイメージを膨らませる。</li> <li>・地域の施設や催し物などに積極的にかわり、さまざまな人との交流、その場に合った行動を経験する。</li> <li>・物事に興味や関心をもつとともに、楽しさを感じてほしい。楽しさから学ぶ力が育っていくと思う。(4)</li> <li>・子どもが学ぶ力を身に付けるのは、自然の中での体験だと思う。道草、水たまり、段差を歩いたり転んだり、暖かい寒い冷たいなど感じたりと、五感を体でたくさん感じていることが大事だと思う。</li> <li>・制作やお絵かき等で、集中力や持続力をつけること。</li> <li>・自分でやろうとすること(積極性)。</li> <li>・押しつけではなく、子どもたちが自然に興味をもてるような環境をつくり込むこと。</li> <li>・いろいろな興味関心をもてるよう、環境を整える大人の配慮がとても大切である。</li> <li>・過剰に褒めて褒められることが目的にならないよう、内面的な動機を大切にするような言葉がけを意識すること。「偉いね」よりも「ありがとう」</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・興味や関心をもったことに一緒に考えたり、取り組める環境。</li> <li>・様々な経験ができる。・周りの空気(雰囲気)を感じとれる。</li> <li>・集中力をつける。</li> <li>・子どもにとって遊びの始まりにはまわりの物全て生活の中にあると思う。赤ちゃんもまず目で追って見て、手にとって触って口にもっていく、なめるという行動から始まる。まだ言葉にできない6歳児には、保育師の言葉かけもたくさんあると思う。そうして、まわりのことへの興味関心をもつことに繋がり、子どもの「どうして」「なぜ」は繰り返しあるが丁寧にかわり、いろいろなことへ目を向ける姿勢をもつこと。</li> <li>・楽しい、やってみたいと思える気持ち。意欲があるか否か。</li> <li>・自分でやってみようということ。親が1から10まで手を出してしまうと自分で考える力が薄れてしまうと思う。大人は全てやらせてみる、全てやる、しか選択肢がないが、できないことをそのままにせず必要な部分で成長に合わせて手助けをしていくことが大切だと思う。</li> <li>・早期からの机上の学習ではなく、実体験を多くすることだと思います。</li> <li>・知りたい、やりたいと思ったときにできる環境を提供すること。取り組みについて肯定されること。</li> <li>・いろいろなことに興味や関心をもち、行動に移す。(2)</li> <li>・家族、保育士など周囲の大人がさまざまなことの手本になる。</li> <li>・自然、玩具など学べる環境づくり。</li> <li>・やる気の出る言葉がけをしていく。</li> <li>・子どもが興味関心をもつことを大事に受け入れ、その内容を広げていくことが保育士の役割と考えます。</li> <li>・子どもが気づいたこと、感じたことに大人が共感し、受け入れて答えて広げていけるとよい。</li> <li>・遊具が何もない自然の中で遊ぶと、子どもは考えながら遊びをつくり出す。例えば石ひとつ棒ひとつで遊びを発展させ五感をフルに活用しながら脳を働かせます。一つ一つの経験の積み重ねが学ぶ力をつけていくと思う。</li> <li>・人格の基礎作りの大切な時期である幼児期において、子どもが本来持っている「素晴らしさ」や「成長したい」という気持ちをうまく伸ばし、「やる気」を引き出していくことが必要だと思います。色々な物事に興味や関心が持てるよう、環境を整えていくことも大切だと思います。</li> <li>・大人がいろいろなことに興味・関心をもち、子どもたちに働きかけることが大切。</li> <li>・子どもにとってときどき、わくわくするような体験。</li> <li>・自然とふれあう機会。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・自分で考えられる力。</li> <li>・周囲に関心をもつ。(2)</li> <li>・集団生活をする。</li> <li>・いろいろな人と接すること。</li> <li>・異年齢で関わる環境の中で育てる。</li> <li>・命は大切だということ、自分の命は自分で守ることの大切さを伝えること。</li> <li>・小さな頃から戸外で過ごす機会をもつこと。汚れることを嫌がる子もいる。</li> <li>・何事にも意欲をもって見たり、考えたり、試したりすることが大切だと思う。まず、生活全般で意欲がないと、学ぶ力に結びついていけないのではないかと。</li> <li>・保育士が子どもたちの興味を引くように心がけること。</li> <li>・物事に集中して取り組むこと。(2)</li> <li>・疑問に思ったことを落ち着いて自分で考えてみる。</li> <li>・新しい経験をするときなどに相手の話の内容を注意して聞くようにする。</li> <li>・文字や数字(算数)などに力をそそぐ傾向が保護者に見られますが、不思議に思う感情や知りたい気持ち、発見する楽しさを多く経験でき、認められるうれしさを味わうことが大切だと思います。</li> <li>・何でもやろうとする意欲がある。</li> <li>・すぐあきらめずに何でも挑戦すること。</li> <li>・人の話を静かに聞くことができる。(2)</li> <li>・大人がまず物事に興味関心をもち、その姿を見せたり一緒に考える。わかった時のうれしさをたくさん感じさせてあげられる環境をつくれるとよいと思います。</li> <li>・物事に対して「なんでだろう」という気持ちをもつことだと思います。</li> <li>・自然と触れ合い、五感を使って十分に遊ぶ中でいろいろなものに興味や関心をもち、好奇心・意欲が湧き、学ぶ力が育つと思います。</li> <li>・とにかくこの幼児期にいろいろな経験をする。それにより好きなことを見つけられると思う。また、いろいろな感覚が育まれると思う。</li> <li>・保育する側もいろいろな機会を与えることが望ましい。</li> <li>・子どもに自信をもたせること。</li> <li>・達成感を味わうこと。</li> </ul>
まとめ	<ul style="list-style-type: none"> <li>・自分から様々なことに興味・関心を持ち、積極的に行動することや、自然とのふれあいが大事であるという回答が多く見られた。</li> </ul>		

	就学前施設 園長	就学前施設 主任保育士	就学前施設 職員・教諭
問4 子どもが不安なく小学校生活をスタートできるために必要なこと、実際に行っているものは何ですか。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・保育園生活の中で就学前までに生きる力が身につくように子どもたちに働きかけると共に、懇談会等でも保護者にも伝え、共に子どもたちを育てる環境・体制を整えていくことが必要。・小学校との交流の場(3)</li> <li>・小学校での一日授業体験と交流活動をぜひ行ってほしい。(5)</li> <li>・本年では近くの小学校にお願いして、年長組みが3月に学校見学に行きます。幼稚園では学校ごっこをします。</li> <li>・小学校という場に何度か行く機会があれば心強い。また同じ小学校に仲のよい友達がいると心強いのではないかと感じる。(2)</li> <li>・就学サポートチームの巡回訪問(年6回+その後の担任との話し合い)</li> <li>・友達関係をうまくつくる能力</li> <li>・年10回の幼稚園開放を行っている(地域に開かれた開放)</li> <li>・福生第二小学校の6年生が職場体験に来てくれている。園児も喜び、小学校への期待感へと繋がっている。また、二小に招待され、年長児が学校見学に行く交流もあります。こちらも園児たちにとってよい体験になっています。</li> <li>・小学校の先生が聞き取り調査にも来てくださり、子どもや保護者の情報を交換しています。卒園してしまうと切れてしまうので、卒園後も定期的に情報交換を行い、幼児期の特徴が小学校でどのように現れるのか検証できると双方の教育に役立つと思います。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・単発的ではなく、断続して伝えたり、交流したりと日常の中で取り入れていけるとよいと思う。</li> <li>・幼・保・小の子ども同士の交流。</li> <li>・小学校に行って雰囲気を知ったり、授業の見学。小学校がどんなところなのか期待をもつ反面、不安も大きいものだと思う。就学児健診で親と一緒に出かけのが第一歩だと思う。初めてのお子さんの親も不安があると思う。今では事前に小学校へ出かけ、校内見学だけでなく、5年生が対応して下さり、小学校入学したときは6年生になっているとてもよい体験交流活動となっている。これからは保護者向けがあってもよいと思う。</li> <li>・小学校の先生が乳幼児期を理解していただくのも大切だと思います。学校訪問を経験することで子どもは安心感を得られるかと思えます。</li> <li>・幼稚園、保育園、小学校の先生方と話し合いの場を聞き取り調査という形でやっていると、継続して一緒に考えていけるような体制もあるとよいと思う。</li> <li>・小学生がいつでも遊びに来たり、運動会などの行事に参加しやすい雰囲気をすることが大切だと思います。学校行事(運動会・学芸会・展覧会など)へも参加させていただいていますので、学校への興味が深まり、不安を取り除くことに繋がっています。</li> <li>・小学校との交流活動(事前に保育園児が参加できる活動が把握できるとよい)(3)</li> <li>・就学前に小学校見学や体験授業などできるとよい。(4)</li> <li>・小学校との交流の機会をもっと多く、作ることが必要だと思います。当園では、近隣小学校からの要請を受け、職場体験授業の受け入れ(6年生)をおこなっております。異年齢同士の交流を深め、小学校への期待を高められるようつとめています。また、反対に、年長児童が小学校を訪問し、校内見学や在校生との遊びを通して、小学校進学への不安を取り除き、進学を楽しみに待てるような機会を設けて頂いております。</li> <li>・近くの小学校の6年生が体験実習に来て、遊んでくれます。年長組みは3月頃にこの小学校に見学に行き、遊ぶ機会があります。小学校がどういうところか事前に知ることができ、大変ありがたいイベントだと思います。</li> <li>・年度末に小学校の先生方がいらして、入学予定のお子さんの様子を話す機会があります。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・小学校の見学、交流(6)</li> <li>・職員同士の情報交換</li> <li>・気になる子に対してのサポート(行政のサポート)・幼保、小学校の子ども同士の交流ももっと必要だと思う。行事参加だけでなく、一日体験や校庭で遊んでみる体験などできるといいと思う。</li> <li>・保育士は小学校の先生の授業やクラス運営についてはわからないし、小学校の先生は保育士のカリキュラムやクラス運営について知らないで、お互いに勉強しあったり、交流、研修などがあるとよいと思う。</li> <li>・一人ひとりの育ちの情報交換(幼児期の保育歴とその後の学校生活の情報交換を密に行い、お互いが教育・保育の参考にしていく)</li> <li>・小学校との交流は特にないので、年長児は交流する機会があってもいいと思う。就学前に小学校の先生に子どもたちの様子を見ていただけてよいのではないかと。(3)</li> <li>・小学校での一日授業体験、交流活動はできれば園ごとではなく、その小学校に通う子たちが集合することがよいと思います。</li> <li>・学童と小学校の見学を予定していたが、インフルエンザが流行してしまい中止になってしまった。散歩で外からは見学した。不安なく小学校生活を送れるよう小学校や学童に行き交流をした方がよいと思う。</li> <li>・すぐ近くに4小があり、5歳児は授業の様子を見学させていただく機会があります。また、「学校ごっこ」を行い、小学校への期待を高めています。作品展を見学しに行ったり、卒園児が遊びに来られるイベントもたくさんあるので交流の場になればと思います。</li> <li>・年長では小学校に見学に行ったり、幼稚園で「学校ごっこ」をしたりしています。また、幼稚園の運動会やバザーでは、ドッジボール大会など、卒園した友達に参加できるイベントがあります。</li> <li>・各小学校の先生が就学時の園での様子を聞き取りに来園して下さり、保護者から学校生活の中で個人にどのような配慮が必要か申し送りをしています。</li> <li>・就学児の小学校の先生による聞き取りと申し送り。(3)</li> <li>・就学サポートの巡回の徹底(もっと多くの時間をかけて支援の必要な子に働きかけたり助言したりしてほしい)。</li> <li>・就学サポートチームによる巡回とそのあとの話し合い(2)</li> </ul>
まとめ	<ul style="list-style-type: none"> <li>・小学校との交流の機会を増やすことが必要であるという回答が多く見られた。</li> </ul>		

	就学前施設 園長	就学前施設 主任保育士	就学前施設 職員・教諭
<p>問5 「家庭の教育力」を高めるために重要なことは何だと思いますか。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・園に預ける時間が長いのでなかなか難しいが、親子でいろいろなことを体験したり、生活の中で親が子どもと向き合い、子どもに経験させながら教えていくことも大切。</li> <li>・親も育てていかないと難しい。</li> <li>・子どもに目を向ける。</li> <li>・子どもの話をよく聞く。</li> <li>・保育園や学校に任せきりにしない。</li> <li>・家族であるにも関わらず、食卓では各々違うものが用意されていたり、各自ゲームに熱中し会話がほとんどない状態は心配になってしまう。親の育児姿勢で子どもたちは変わるので、十分に気をつけながら子育てすることが大切である。特に乳幼児期ではとても吸収力があるので、一日一日がとても大切である。</li> <li>・遊びを通して子どもの様子を見ながら段階的に思考力や体力を向上させる。そして続けていくこと。</li> <li>・家庭での手伝いを継続する中で幼児の家族の一員としての誇りや自信を認め合うこと。</li> <li>・子どもが興味を持ち始めた時、物事に集中するので、その時に話を聞いてあげる。</li> <li>・家族が仲良くすること。スキンシップをとりあうこと。(3)</li> <li>・家庭の中での教育は「一緒に」生活体験していくことだと思う。親と一緒に掃除、洗濯、買い物をしてお金のやり取りを見たり聞いたり。やはり親と一緒に生活体験をしていくことだと感じる。</li> <li>・地域の中に、気軽に子育てママさんをたくさん組織して(小集団がいい)、悩みを打ち明け、相談ができるとよい</li> <li>・子育てにもっと積極的にお父さんの参加を促す工夫や組織を(牛浜幼稚園開放：土曜日にお父さんが子どもを連れて遊びに来る)つくったらよい・保護者が誰かとつながっていること。友だち、地域、子育てサークル等々、できるだけいろいろなチャンネルをもち、いろいろな情報が入るようにしておくこと。同時に、たくさん情報から必要な物を取捨選択する技術を教えること。それぞれのつながる先もちゃんと連携していて網の目のようにネットワークが地域に構築されていること。</li> <li>・家庭環境の向上がそのまま子どもの学力につながると考えているので、とにかく孤立させないような仕組みを構築することが重要だと思います。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・地域、各機関からの働きかけにより、意識付けを行い、高めていく。</li> <li>・気軽に相談・アドバイスをしてくれる人がいる。</li> <li>・子どもに適度な関心をもち、一緒に悩んだり会話を楽しむこと。</li> <li>・親が手本を示す事がなくなっている。言って育てるのではなく、親の行動を見て育てる。親と子が同じ体験をする。親と子が同じ体験をする。お手伝いをさせて、できたという喜びをもたせ、子どもに目標をもたせるなどもよい。コンサートをはじめとする文化活動や読書活動など、保護者の情緒、教養も高めながら、親子レクリエーションなど親子が一緒に活動を通して家庭での教育力の向上もあるかと思う。(2)</li> <li>・子育てを楽しみと思えること。そのためには社会全体が子育てにやさしい環境であること。余裕があれば子どもにも自然と目が行くと思います。</li> <li>・子どもを育てるのは親の責任であるということが薄れているように思う。家族の中の人間関係が希薄になっていること、メディアや携帯の普及が逆に家族のコミュニケーションを奪っているように感じる。</li> <li>・園が掲げる教育方針や保育目標をまずご理解いただきたいです。園と保護者の協力的な関係が築かれていれば子どもへもよい影響があるのではないのでしょうか。各個のモラルの低下に悩むこともあります。まずはあい携えて育てていく関係でありたいと思います。</li> <li>・保育園に通っているお子さんの年齢に沿った基本的・平均的な発達の様子について伝える。</li> <li>・保護者自身もコミュニケーションが苦手になっているので、地域の人たちとのかかわり、保育園とのかかわりの中で大人の資質を高めていく。</li> <li>・講演会等を通して保育、子育ての大切さを伝えていく。(2)</li> <li>・具体的にいろいろな事例を保育園などが伝えていってあげられるとよい。</li> <li>・年齢にあった、人間社会で必要なしつけ。</li> <li>・「おはよう」「ありがとう」「ごめんなさい」など、自分から自然に発することのできる素直な心。</li> <li>・無理に教えるのではなく、子どもが好きなこと、興味をもつことは何かを見つけてあげられるとよいのではないかと思う。その子の段階にあった教育が大事だと思う。</li> <li>・家庭の教育力→親の教育力を高めるために必要なこと→それは親を教育すること、親になるための教育の場。例えば子育てに関する勉強会などが身近にたくさんあるといいのでは。そして特に必要とされるのは子どもが生きていくうえで「生活力」を身に付けさせるのが重要で、親が本気になって子どもと一緒に一つ一つ体験し体験を積み重ねることでは。</li> <li>・親の問題意識。我が子しか見ていないのでそれが基準となってしまう。もっとたくさん情報収集をしたり、相談できるところを利用するなど、外に目を向けてほしいと思う。</li> <li>・育児に積極的に父親が参加するべき。仕事の都合で平日は無理だとしても休日に時間をつくることは可能だと思われる。</li> <li>・つつい早期教育という言葉に踊らされ、勉強に力を入れてしまいがちだが、特に幼児期は体を使う、感覚を磨く、いろいろなことを経験することが大切なのではないか。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・保護者に子どもたちの成長や一般的な発達段階を伝え、子どもたちの集団の中での役割を伝え、理解してもらうこと。</li> <li>・母子の絆を深める(過保護・過干渉・無関心の解消)。</li> <li>・子育ての不安解消(しつけ・教育方針など)。</li> <li>・いろいろなことがわからない保護者が多く、子育ての方法や子どもの発達など、園でも折にふれ話すようにしているが、なかなか伝わらないのが現状。また、生活するだけで精一杯で、「家庭での教育力」にまで考えが及んでいないと思う。教育力以前に生活力の底上げをした方がよいと思う。</li> <li>・常に子どもと向き合うという気持ち。</li> <li>・父親の育児参加と、そのための環境整備。</li> <li>・他の家族との関わりが少なくなっていると感じることがある。交流する中で保護者同士、子ども同士が学びあうこともあると思うので、子どもだけでなく家族間の交流も重要だと感じます。(2)</li> <li>・家庭(保護者)に対して、育児ということの大切さを伝え、学習は学校の教育のみではなく、家庭で育まれる道徳的なことや生活の中で身に付けることも重要なのだということ、わかりやすく伝えていくことだと思います。</li> <li>・普通の常識のない親が多い。親の教育が必要なかもしれない。</li> <li>・子ども中心に行動したり、子どもの楽しいと思えることをしたり、子どもとのふれあいの時間を大切にする。</li> <li>・大人の都合で子どもを連れまわさない。</li> <li>・悪い時は叱る、褒める時は褒める、甘えている時は甘えさせてあげる、それができない。子どもの様子をしっかりと見てほしい。親が子どもの見本となる行動をしてほしい。</li> <li>・家庭は家庭とならず、子育ての悩みを話せる場や、情報交換できる場が必要かと思えます。</li> <li>・お父さんとお母さんが協力しあえることも大切だと思います。</li> <li>・保育園や幼稚園から、子どもの成長を家庭に伝え、保護者に子どものことを知ってもらう。そのときに、保護者が家でも頑張って教えてみようと思えるように話し、協力していく事が必要だと思います。</li> <li>・親が将来社会の一員としての大人になる人間を育てるという責任をもって、子どもと真剣に向き合い子育てをする。</li> <li>・子ども主体ではなく、親が考えをもって行動することが必要だと思う。</li> <li>・親が子育てに対し責任をもった上で、家族全員がそろそろ時間が長いことと、親と子が1対1で向き合う時間が長いことが望ましいと思う。</li> <li>・学ぶ楽しさを残すために、先取りしない。</li> <li>・懇談会などに積極的に参加し、いろいろな人の話を聞く。</li> <li>・年齢ごとの発達段階の目安を保護者へ伝えること。</li> </ul>
<p>まとめ</p>	<p>・「子どもが興味を持ち始めた時、物事に集中するので、その時に話を聞いてあげる」などの回答がありましたが、一方で、「保護者自身もコミュニケーションが苦手になっているので、地域の人たちとのかかわり、保育園とのかかわりの中で大人の資質を高めていく」という回答がありました。</p>		

	就学前施設 園長	就学前施設 主任保育士	就学前施設 職員・教諭
問6 「地域の教育力」を高めるために重要なことは何だと思えますか。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・園などで「場」を提供し、同じ年齢の子どもたちの様子を知ったり、親子で体験できる場や相談できる場をつくってあげることが大切だと感じる。</li> <li>・地域にはいつもお世話になっている。</li> <li>・地域に溶け込むこと、地域からも関心をもってもらえる運営が必要。</li> <li>・地域の人々の集まる行事に参加し、顔なじみになるよう心がけることが大切です。それに伴い地域の皆さんと交流が広がり、いろいろな方面からの情報や知識が深まります。</li> <li>・地域の方の中には、いろいろな経験をもっている方も多いと思うので、関わりがもてるとよいと思う。</li> <li>・ふっさっ子ひろば型のミニ版を保育園・幼稚園にも展開することにより、遊びの伝承など知・徳・体の向上が計られる。</li> <li>・消防署、老人ホームなど施設を訪問見学をさせていただく。</li> <li>・園での子どもたちの様子を見てもらう。</li> <li>・場、交流できる場が重要。(3)</li> <li>・退職したお年寄りを活用する。</li> <li>・ボランティアの積極的な参加を促すこと。また、ボランティアを取りまとめる有能なコーディネーターを育てること。「スーパーボランティア」に依存した体制だとその人がいなくなった途端に教育力が下がってしまう。優秀なホームランバッターではなく、どんなボランティアでも生かしてくれる優秀な監督の存在が不可欠だと思います。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・子どもが小さい時から参加できる場。</li> <li>・地域のひとと何か作ってみたり、遊ぶことのできる場(信頼できる人がいると相談でき、時には同世代、年上の方との交流)</li> <li>・地域で楽しめる機会をつくる。</li> <li>・都市化や核家族化、少子化地域について地域的つながりが希薄になっている。昔から引き継がれている日本の伝承文化などを通して学ぶことは多い。社会性の基本となるべき場で親から子へと引き継がれて、家庭教育を側面から支える場、全ての親に対して親の子育て支援となるように、地域との連携をとって同じ思いを共有して情報の発信、受けて協力していくこと、子どもを一緒に見守っていけるようにすること。放課後も子どもの安全に過ごせる場の確保など。(長時間労働に対して)</li> <li>・地域性、家庭環境、保護者の意識、保護者の生活力、格差など根本を改善しないと高められないのでは。</li> <li>・他人の子どもが間違っただけをした時に、それがいけないこと、間違っただけだと言える大人の存在ではないかと思う。目を瞑るのではなく、目を向けることが必要ではないか。(2)</li> <li>・まず園も地域に必要とされ、開かれた存在でありたいと思う。</li> <li>・現在、地域老人会の方々と行事を通して関わりをもっていますが、いろいろな職業の方にお話をさせていただいたり、遊びを教えていただいたりする機会があるとよいと思う。(2)</li> <li>・子育て中の親に目を向けていただき、保育園の行事、地域の行事を通して交流をもつ。</li> <li>・困ったときに相談できる方がいるとよい。</li> <li>・地域で活躍の場を実際に見て(施設見学や商店の見学)、その中で内容や活躍なども教えたい。</li> <li>・老人ホーム、消防署など施設を訪問・見学させてもらう。</li> <li>・地域の方に園での子どもたちの様子を見てもらう機会を作る。</li> <li>・中学校、小学校、幼稚園、保育園等が、横のつながりだけではなく縦のつながりを深め、教職員同士、子どもたち同士が交流する機会を増やし連携する事が大切だと思います。(2)</li> <li>・大人も子どももたくさんの人とふれあうことが大切。</li> <li>・いろいろな年代の方と関わること。</li> <li>・その地域が取り組んできた昔ながらの伝統行事など。ただ、子どもが多かった時代のやり方や行事の数を、今のこの時代でも同じようにやろうとすることが多く、中心になるべき大人の負担が多くなりがちなので、やり方は考えるべきだと思います。現代版にアレンジする方向で進めると、年上の方たちから文句やアドバイスをされ、結局大変な思いをして昔のやり方でこなしている話を多く耳にします。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・子育てサロンの呼びかけ。</li> <li>・相談機関を充実する。</li> <li>・家族以外の人との交流の場をつくる。(少子化からくる過保護・過干渉を解消、家庭の孤立化防止)</li> <li>・福生っこのひろばなどで、ボランティアの方が子どもたちにいろいろなことを教えてくれる場はあるが、地域の中でそのような活動が増え、土日に教室が開かれたり、参加できる年齢・活動が幅広くなっていけばいいのではないかと。</li> <li>・他人の子だから、などが地域の教育力を下げている原因だと思える。</li> <li>・地域活動への積極的参加。人とのつながりの大切さを知る。</li> <li>・町内会や幼稚園・保育園でいろいろな方と関わる行事を続けていくこと。</li> <li>・信頼できるシルバー世代の方々にも活躍していただき、放課後や保育園、幼稚園などの自由時間などに個人個人とじっくりかかわり、知識・知恵を伝えていただくこともよいと思います。(2)</li> <li>・小中学校の1クラスの人数をもっと少なくし、子どもたち一人ひとりに目が行き届くようにする。</li> <li>・地域の大人が子どもたちに目を向け、関心をもったりふれあうことが大切。</li> <li>・地域のつながりが薄く、地域の活動にあまり興味のない方も多いです。子どもから大人まで楽しめるイベントを通して、地域で子育てをしていける環境づくりは大切だと思います。地域の大人が力を合わせて楽しんでいたり、地域のために考える姿を見て子どもは育つと思います。</li> <li>・地域の子どもが参加できるイベントを通して、大人と子どもとのかかわりを増やすことだと思います。</li> <li>・子どもが自由に遊べる環境の中で悪いことをしたら近所の人にも叱るというような状況が好ましいが、現代の防犯事情により難しい。</li> <li>・親が地域の活動に参加することで、親も子も近所の人と顔見知りになりコミュニケーションが取れる。</li> <li>・親子で参加できる地域活動が多いことが望ましい。そして、それに親子で参加し、親も子も近所の人と顔見知りになる機会をもつことで、地域の人の目もより子どもに向くと思われる。</li> <li>・場の提供をする。図書館・児童館・体育館など、さまざまな年齢の人が集まる場所のサービスの充実。</li> <li>・保護者、教育者などの大人の意識を変える。</li> </ul>
まとめ	<ul style="list-style-type: none"> <li>・地域の活動に積極的に参加することで、大人と子供とが相互に関心を持ち、繋がる大切であるという回答が多く見られた。また、ふっさっ子のひろばで、ボランティアの方が子どもたちに教えてくれる場があることも影響し、「ふっさっ子ひろば型のミニ版を保育園・幼稚園にも展開することにより、遊びの伝承など知・徳・体の向上が図られる」などの提案もあった。</li> </ul>		

	就学前施設 園長	就学前施設 主任保育士	就学前施設 職員・教諭
問7 市民が子育てをしていて困っていることは何だと思いますか。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・いろいろな子育ての情報がインターネット等で流れているが、知識ばかりで実際の子育てとのギャップを感じていたり、自分の子育てが思うようにいかず悩んでいる家庭もあるが、相談できる場、経験できる場をこれからも提供していきたい。</li> <li>・福生市は子育て環境が充実していると思う。</li> <li>・育児相談ができる場所。街中で立ち寄りやすい場所。</li> <li>・一時預かり・子育てに自信がなくなり、行き詰ったり悩んだりしたとき、心のケアをしてくれる人材や機関が少ないと感じる。</li> <li>・子どもが病気になった時、休めない、すぐ帰ってこられない時。</li> <li>・子どもの育て方がわからない。</li> <li>・何で泣いているのかがわからない。</li> <li>・どのくらい食べたらいいのか、飲んだらいいのかかわからない。</li> <li>・眠らない等普段の生活リズムの中での育て方、病気の加減など、おばあちゃんがよく知っていることを教えてもらえると助かるのでは。</li> <li>・ご家庭の都合によりすぐに子どもを預けられる保育施設、または保育サービスが受けられる場がない。</li> <li>・幼稚園への子どもを通わず家庭へ補助を増やしてほしい。</li> <li>・公園の充実。似たような公園ではなく、それぞれにテーマをもった公園があってもいいと思います。外遊びが減っている原因は安心して遊べる場所が少なくなったことも大きいと思います。公園によっては、ガラスの破片が落ちていたり、犬の糞が落ちていたり（犬の放し飼いな多い）、木が茂りすぎて視界が悪かったり、お手洗いが安心して使えなかったり、予算の都合とは言え、管理が行き届いていないと感じます。場所も大きさも素晴らしい公園が多いので、少し残念です。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・大変だと思うことに手を貸してもらえない人がいない。</li> <li>・子育ての手助けや悩みを聞いてくれる人がほしい。（場を設け、そこに行かなくても気軽に話しができるとうい）</li> <li>・公共施設の使いやすさ</li> <li>・近くに祖父母がいないと仕事をしていると気軽に頼むことができない。気軽に頼める工夫。</li> <li>・相談者・一時預かりの充実・子育て中で安心して相談できる場所、人。</li> <li>・子どもを預かってもらえる保育サービス（時間、費用、内容などが充実し、手続きが簡単）</li> <li>・困っていることに気付いていない人も多いように思います。</li> <li>・病児保育・待機児童</li> <li>・園児が病気になったとき、すぐに早退できない、休暇が取りにくいなどの職場の環境。</li> <li>・特に身近に頼れる人がいない子育て中の親が多いのでは。保育園は母親が働いていなくても子育てを学ぶ場、子育ての情報を知る場であり、子ども自身が集団の中で育ちあひ学びあう場であるので、誰でも必要とする人が保育園に入園でき孤立しない子育てができれば。</li> <li>・家族連れや親子連れが足を運びやすい、公共の施設、屋内遊び場を増やしてほしいとの声をよく聞きます。また、子連れでも、インターネット等で予約が取りやすく、手続きが煩雑ではない、施設利用を求める声も聞かれます。</li> <li>・親子の仲間づくり。他市のことですが、3ヶ月健診に行った時に「次は〇月〇日に集まりましょう」というお知らせをくださるそうです。その後2ヶ月に1回定期的に集まる機会を保健師さん主導でつくってくださり、親子の仲間づくりはもちろん、保健師さんに相談したり、お互いに悩みを共有しあったりする場所がある。友人はこの集まりで自然に友達ができたととても喜んでいました。児童館に遊びに行っても自ら声をかけないと友達になるのは難しいと思います。しかし、このシステムならば月齢も同じで悩みも共通。何より保健師さんがいろいろと働きかけてくれるので、自然に仲間づくりができるようで正直うらやましかったです。</li> <li>・子育てすることにあたっての補助金システムなど。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・勤務の実態に合わせた保育（時間の調整、個別配慮など）</li> <li>・育児相談窓口を増やす（相談相手の不足）（2）</li> <li>・父子家庭に対する援助・助成</li> <li>・公園等の整備</li> <li>・不審者対策・病児保育がない。</li> <li>・病後児保育では対応できていないと思う。病院併設の病児保育が他市にはあるので、あればいいと思う。</li> <li>・やはり病気になったときに見てもらいたいと思うが、このシステムができてしまうと子どもが病気の時まで仕事ができる社会になり、私自身は反対。子育てにおける相談や協力が得られたい。</li> <li>・サービスは存在しても、利用しづらい、または利用に踏み切れない。</li> <li>・外国の方が多いので、手紙は日本語で書いてあるものを送ってもわからない方が多いと思います。わからないと大事な書類をそのままにしてしまう場合もあるので、日本語以外の言語にも対応してくださるとスムーズかと思います。</li> <li>・子育てに行き詰ったり悩んだりしたとき、心のケアをしてくれる方や機関が明白でなく、足らないこと。学校や保育園内に設置しても他の保護者の目が気になり、相談ができないので雰囲気大切にされた専門家が対応する施設があるとよい。</li> <li>・働く母親にとって中学校の給食を早く実現してほしい。</li> <li>・各会社の育休、産休の充実・拡大・共働きの方が多いので、お子さんが病気になったときに預けられないと困っている方は多いと思います。一時預かりのできる場所をお探しの方も多いです。（3）</li> <li>・子どもが少なく、友達とのかかわりができない。</li> <li>・近所に一緒に遊べる同年齢の子が少ない（子ども自体が少ない）</li> <li>・親側、子ども側それぞれに細かな問題（困っていること）はたくさんあると思います。</li> <li>・保育料、教育費、習い事の月謝などの金銭面</li> </ul>
まとめ	<ul style="list-style-type: none"> <li>・子どもが病気になった時、休めない、すぐに帰れないということがあるため、家庭の都合によりすぐに子どもを預けられる保育サービスの希望や、相談窓口及びその人材の充実という回答が多く見られた。</li> </ul>		

	就学前施設 園長	就学前施設 主任保育士	就学前施設 職員・教諭
問8 子育て支援についての意見	<ul style="list-style-type: none"> <li>園の中で母親が仕事をしやすいようにサービスを提供していたが、子どもにとって何が大切かと言うことを考え、家庭と連携して先に子育てをしていくためにこれからも各家庭に引き続きいろいろなことを働きかけていきたい。</li> <li>自然の中で自由に遊べる場が少なくなり、相手や物事に対する安全と危険の程度を判断する能力が低下してきていることにより、さまざまな面に波及してきていると思う。</li> <li>子育てを楽しんでもらえるよう地域に信頼される保育園として取り組んでいる。まだまだPRを含めて力不足があるので更なる努力をする。</li> <li>行事をたくさん計画して、子育て支援に力を入れる。</li> <li>母親同士の交流</li> <li>コミュニケーションのできる場</li> <li>高齢者への補助も重要だが、若い子育て世帯への支援をしないと、子どもが減ってきて日本の将来が危ういと思う。</li> <li>就労支援という名の子育て支援ではなく、本当に子どもを育てようと日夜試行錯誤しつつ苦勞している保護者を支援し、応援する子育て支援を考えていただきたいです。子育ては親が責任をもって行うものであり、それが様々な事情でできない場合に社会福祉で助けてあげるようにしないと、「安いから」「楽だから」という理由で子育てを他人に任せる人が増えてしまうでしょう。苦勞があるからこそ子育ての感動もあるわけで、その苦勞を乗り越えるための「勇気と知恵」を地域(昔ならおじいちゃん、おばあちゃんなのでしょうけれど)が教えてあげられるとよいと思います。その苦勞を簡単に肩代わりする社会では、少子化は解消されても今度は非行問題で悩むことになるでしょう。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>子どものような感覚でいる母親も増えてきている中で、まずは母親を育てることも考えていかなければ、様々な面で子どもたちにしわ寄せがきています。</li> <li>子育て支援なので、本当に必要のある方にはすぐさまの対応があつてよいと思う。</li> <li>子育て支援は子どもの幸せにつながらなくてはならないと思います。親のため、親のものではないと思います。</li> <li>保育園のあり方が問われる世の中だが、子どもを保育園に預けている親を育てることも大切なのではないかと思います。</li> <li>園として子育て支援の場に(なかよしクラブ)参加していますが、他団体がどのように活動されているのかわかりたいです。それにより、保育園職員が行う子育て支援の独自性も打ち出せるのではと考えます。</li> <li>保育園によるなかよしクラブ等は乳児の受け入れもあり、安全性を考えるとそれなりのスペース環境が保てるように市の協力も得たい。子育て支援に保育園も工夫し、保護者もサポートしているが、保育園だけでは受け止められないこともある。市民が求めている支援を考えていく。</li> <li>子育てをしない他人任せの支援にならない支援ができるとよいと思います。</li> <li>保育士同士の意見交換会などの園長会に参加させていただき、福生の子どもの育成についての話し合いに参加させていただきたい。</li> <li>保護者同士の交流を深める場があるとよい。</li> <li>福生市は子育て支援のメニューがたくさんあると思う。あり過ぎてどこに行ってもいいかわからない母親もいるのでは。</li> <li>保育園は子育てのノウハウを蓄積している場であるから、それを子育て中の親に提供できないものか。</li> <li>ベビーカーや自転車の通行しやすい道路整備、子育て支援バス、タクシー利用チケット等の配布など、具体的な「目に見える支援」をして頂けると助かります。そのうえで、お年寄りや学生と交流、人とのつながりを深め、福生市全体が大きく前へ進んでいける、活気のあるまちづくりをしていきたいです。よろしくお願い致します。</li> <li>福生市には素晴らしい児童館が3館もありますが、残念なことに駐車場に限られています。子育て中に車は必要です。我が家は児童館から遠く、歩いて行かぬと雨がずっと親子で煮詰まりそうでした。駐車場が広がったらと何度も思いました。その点、子育て支援センターはありがたいです。下の子の時には上の子とお友達数名でよく利用させていただき、本当に助かりました。土地の問題があるとは思いますが、児童館に駐車場を検討していただけたらうれしいです。</li> <li>保育園が一時預かりをしてくださるシステムですが、園によっては「その日は無理です」と一言だけ返され電話を切られたことがあります。本当に困っていたのでだめもとで二つ目の園に連絡をしたところ、初めはあまりよい返事ではなかったのですが、担当の方が代わり事情を説明したら快くOKと言ってくださいました。お返事の仕方ひとつで煮詰まる親子関係がよくなるか悪くなるかわ変わるのではと思いました。子育て支援というのであれば、そういう点からも支援していただけたらうれしいです。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>母子家庭が増えてきているので、家庭の実情に合わせて援助したり、相談しやすい環境をつくっていく。園以外での相談機関も活用するなど個別配慮が必要だと思う。</li> <li>母親の低年齢化、シングルマザーによる育児力の低下、家庭の孤立化防止などの援助、アドバイス。</li> <li>行政によるサポート・順調に子育てに向き合っている家庭、そうでない家庭があり、保育園でも支援しているが、子育てが十分に行えていなかったり、子どもの対応に困っている家庭にもっと何か支援できることはないか考えていただきたい。</li> <li>昨年度より始まった就学サポートでは、知能検査で出た結果ばかり先行し戸惑っている家庭や子どもへのサポートが不十分だったと思う。ぜひ、結果で終わりではなくもっと相談できたり、子どもへの療育ができるようにし、入学後も相談見守りを継続できる環境づくりをしてほしい。</li> <li>母親は仕事をしていると日々に追われ、子育てを楽しむまでにいたっていないように見受けられる。幼いときに育まれた愛情は人間形成にとっても重要だと思われるので、乳幼児期子どもと過ごす一瞬一瞬を大切に思ってもらえるよう、楽しんでもらえるよう、働きかけていくことが大切ではないかと思います。</li> <li>最近子育て支援に力を入れているので、子育てしやすくなっていると思う。一時保育、病後児保育など母親のリフレッシュで子どもを預けられるようになった。その反面、子どもを人任せにしまい、子育てで苦勞しないと、その子に深い愛情がもてるのか、親子の絆やつながりが薄くなってしまわないか、などの不安な面も出てくる。</li> <li>子育て支援として、保育サービスや交流の場を充実させるために、工夫や努力を各園でしていると思います。その分、園への支援も充実すると思います。</li> <li>ベビーカーでも不便な思いをしなくてもよいように環境を整えてもらいたいです。</li> <li>誰のための子育て支援なのか疑問に思うところがあります。親が楽をするのではなく、子どものための子育て支援であってほしいと思います。子どものための子育て支援であってほしい。</li> <li>子育て支援サポートは充実しているように思われるが、市民への認知度が低いためと保護者の理解不足から利用者が低いように感じる。</li> </ul>
まとめ	<p>・福生市は子育て支援サポートは充実している」という意見がある一方で、「市民への認知度が低いためと保護者の理解不足から利用者が低いように感じる」という制度や情報の発信方法に課題がある回答がありました。</p>		



## 小学校・学童クラブ・児童館に対する調査結果

( ) 内は件数

	小学校 校長、教諭	学童クラブ 職員	児童館 館長
<p>問3 幼児期に身につけておくべき「生きる力」について気になることはありますか。</p> <p>①生活面について</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・少しの間、じっとして話を聞く力が付いていないこと。</li> <li>・算数の基礎である、数の概念（十くらいまで教える、だいたいの時間が分かるなど）がなく、数を日常の中で使う経験がほとんどないまま入学してくる子がいること。</li> <li>・順番を守る、黙って待つ、多少の強い言葉を言われてもキレない、などの我慢が必要なことが苦手な子が多いこと。</li> <li>・身の周りの整理整頓がしっかりできないこと。脱いだ服は脱ぎっぱなし、使ったものはそのままなど。</li> <li>・夜更かし。</li> <li>・家庭の状況によって、小学校入学時に睡眠、食事などの基本的な生活習慣が定着していない児童が毎年数名ずつ見られます。</li> <li>・片付けができない子が多い。</li> <li>・生活リズムが大人型（就寝が遅く、起床も遅い） 朝の食欲がなく、排便もしてこない児童が多い。</li> <li>・身の回りの片付け、整理整頓ができない、やろうとしない児童がいる。</li> <li>・集団としての行動（時間を守る、話を静かに聞く、整列する、決まりを守る）等の苦手な児童が増加している。</li> <li>・偏食、アレルギー・アレルギーをもっている子どもがととも増えていると思います。対応等がととも難しいと思います。（2）</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・不規則な時間帯で生活している様子が見られる子が数名いる。睡眠不足。（3）</li> <li>・好き嫌が多い。</li> <li>・運動能力が落ちている気がします。（何もないところで転倒するなど）転んだときに手が出ないため、顔に怪我をする子があります。（はいはいの経験が少ないため？）</li> <li>・基本的なマナーやルール、一般常識が身につけて欲しい。（食事中立ち歩かない、学習中静かに勉強する、大声で話をしない、人の話は黙って聞く等）</li> <li>・衣類の着脱、排泄、言葉づかい。</li> <li>・周囲の気温に合わせた衣服の調節ができない。</li> <li>・チョウチョ結び、堅結びができない。</li> <li>・靴を立ったまま履いたり脱いだりできない。</li> <li>・鼻水をうまくかむことができない。</li> <li>・食べず嫌が多い。食べ物を噛まずに飲み込むように食べる。</li> <li>・アレルギー体質（アトピー性皮膚炎、食物、花粉症等）の子が増えている。（3）</li> <li>・便秘の子が多い。</li> <li>・指先の力が弱くお菓子の袋を開けられない子が増えた。</li> <li>・外遊びやトイレの後などに、声をかけないと手を洗わない。</li> <li>・全体のルールよりも、自分がしたいことの方を優先したがる。</li> <li>・自分で使ったものの後片付けができない子が多い。</li> <li>・おやつが好き嫌がある子が多い。</li> <li>・食事の時口からこぼす、食べている時にこぼす児童が増えた。</li> <li>・食事の時に立て膝で座る児童、終るまで座ってられない児童が増えた。</li> <li>・親子で寝坊し、9時までに登所できない子がいる。親子で遅く寝て、遅く起きる習慣がついている。</li> <li>・親の言葉遣いが悪いので、児童への影響力が大きい。</li> <li>・物を大切にできていない子が多い。</li> <li>・偏食、好き嫌が多い子、特に野菜が苦手な子が目立つ。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・アレルギーの子は増えている気がする。</li> <li>・朝食を食べない小学生が少数ではあるがいます。</li> <li>・夜更かしや睡眠時間が少ない小中学生がいる。</li> <li>・携帯電話、スマートフォンを所持している子どもが多数いる。特に小学校高学年以上はかなりの割合で所持しており、ゲームやSNSのアプリで遊んでいる様子が伺える。そこでのトラブルも起こっているようだ。</li> <li>・親子で来館し、その時を一緒に共有できる児童館では日々その家庭の成長、生きる姿を垣間見ることができる。おむつが外れないと話す保護者や離乳食に奮闘している保護者たち。皆、初めての子育てに必死に向き合っている。その時期の「旬」の物を食べさせていきながら「食」を大切にしたいという親もいる。自分でできることを増やしていこうと試みる保護者の忍耐力はまさに「生きる力」の形成に必死なのだろう。反対にそのようなことは無関心で、その子どもの生きる力など大切ではなく、親自身が生きる力とは無関係で、きりきりまいたいという状況も少なくない。最近、気になることは子どもの子守りをスマホにさせてしまう親。乳児期にはアプリの中の画像や音楽を見せて泣き止ませていたり、2歳くらいになると、子どもに操作させて喜んでいる親がおり、親子のコミュニケーションをもう、この時点でとっていない。</li> <li>・偏食、アレルギーの子が増えている。カバンや玩具の片付けができず出っぱなし。</li> </ul>
<p>まとめ</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・幼稚園及び保育園に対する調査の回答と同様、保護者の生活習慣の乱れなどにより、子どもの就寝時間の遅延化及び睡眠時間の縮小、身の回りの整理整頓が苦手、偏食の子の増加など、保護者の原因により、子どもが悪影響を受けているという回答が多くみられた。また、アレルギーの子どもの増加という回答も多く見られた。</li> </ul>		

	小学校 校長、教諭	学童クラブ 職員	児童館 館長
問3 幼児期に身につけておくべき「生きる力」について気になることはありますか。 ②人とかかわる力について	<ul style="list-style-type: none"> <li>・けんかをする、自分の都合のよいことしか言わない、人のせいにする、ふてくされるだけで全く反省しない、聞く耳を持たない、などが目立つこと。また、友達と上手くやろうとすることを、最初からしない、そもそも仲良くするというに価値を見いだしていない子がいること。</li> <li>・多くの子供と遊ぶこと（関わること）の機会が少ないのではないか。集団の中で過ごすことで身に付けられることがある。</li> <li>・言葉遣い。</li> <li>・集団行動の多少の遅れ。</li> <li>・あいさつについて「自分から」「大きな声で」ができない児童が多い。(2)</li> <li>・拍手ができない。声をかけないと音が小さく、しっかりしていない。</li> <li>・物知りで知識欲は旺盛だが、友人や友人関係に対する関心が薄い児童が多い。</li> <li>・けんか（自己主張のぶつかり合い）が下手。仲直りができない。</li> <li>・保護者を見ていてコミュニケーション力が十分に育っていないと思うときがあります。この延長線上に子どもたちがいると思います。</li> <li>・社会性・あいさつが自分からできない。</li> <li>・集団遊びが苦手。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・モラルが低下している様子がうかがえる。言葉遣いが適切でない。我慢が全体的にできない。</li> <li>・自分のことばかりを考え、友達が困っていても助けることができない子が多く感じます。(2)</li> <li>・人の話を聞くことができない子がいます。(2)</li> <li>・みな平等で年上を呼び捨てにします。</li> <li>・人と関わるということは、自分の心と相手の心が接するということだと思う。いつも相手が自分と同じ考えや気持ちをもっていることはないと思う。よって相手を認め、考えについても理解し、思いやりの心を育てることが大切であると思う。</li> <li>・よいことと、悪いことの区別。</li> <li>・我慢ができる。</li> <li>・けじめをつけられる（遊ぶ時は遊ぶ・聞くときは聞く）。</li> <li>・思いやり（高齢者、年下）の気持ち。</li> <li>・友達と仲良くする。</li> <li>・相手の気持ちが分からないが多い。1人または仲の良い数人で過ごすことを好み、集団行動が苦手な子が増えた。</li> <li>・ルールを守ることができない子や、自分でルールを勝手に変えてしまい、友だちと遊べない子が増えた。</li> <li>・我慢することが苦手で、思い通りに行かないと手や足がすぐに出る子が増えた。</li> <li>・気持ちを言葉で表すことができず、怒りにまかせて「死ね」「消えろ」「殺す」「うざい」といった暴言を友だちや大人に吐く子が多い。言葉遣いの悪い子が男女とも増えた。</li> <li>・異年齢の集団で過ごすことにより、上級生が下級生の面倒を見てくれる。下級生が上級生の遊びをまね、遊びを発展することができる。</li> <li>・ことばで気持ちを伝えられず、すぐに暴力をふるったり、物に当たったりしてしまう。</li> <li>・自分は友だちに対して意地悪な言動をとるが、自分がされると異常に怒ったり落ち込んだりする。相手の気持ちを、自分に置き換えて考えることができない。</li> <li>・年齢の上下にかかわらず、同等の態度でかかわる。</li> <li>・人の失敗を喜び、周りの子ども達に言いふらしてトラブルになることが多々ある。</li> <li>・最近の傾向では、特定の児童としか遊べない、例えば保育園が一緒の児童とだけ遊ぶ。また、一人の子を独占したがるなどの傾向がある。よいところもあるが、一定の児童としか遊べないことになる。</li> <li>・トラブルが発生すると必ず親が出てきて解決しようとする。自分たちで解決する力が弱まっている。</li> <li>・あいさつやお礼を言えない子が多い。(3)</li> <li>・自分勝手に行動する子が多い。</li> <li>・丁寧に話すことにより、約束やルールを理解し守る子が多い。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・仲間意識は高いが、グループ間を越えての交流が少ないように思える。</li> <li>・中には、誰にでも声を掛けて仲良くなる子もいる。</li> <li>・小学校高学年でも男女間が仲良い様子が伺える。</li> <li>・学校間のトラブルなどは減っているように感じる。</li> <li>・人と関わることは、児童館に来館すればその時から、他人との関わりをしなければならない。</li> <li>・元気に「こんにちは」と挨拶し「さようなら」「ありがとうございました」と笑顔で挨拶ができる親に抱かれていた子どもは、同じように笑顔でバイバイができるようになる。また、自分の子どもだけではなく、他人の子どもにも気を使える親の子どもも優しい気持ちや、幼いながら譲る、借す等、他人の身に立っていることを身につけていくのだろう。しかし、核家族で育てている現代の親は自分の家族しか見ることができず（見ようとせず）他人に間違っただけの何かされたことを全部その人のせいにして自分の“非”を認めないことも多々あるのが見受けられる。悲しいことではあるが、その子どもはきっとそう育っていくのだろう。しかし、人と関わるのが苦手で不登校になったり、社会に出ていけなくなってしまう心の病を、その現代を嘆いても進まない。その中で児童館は、その方々と出会ったとき、その心と少しでも向き合っていきたいと考えている。</li> <li>・言葉で自分の気持ちを伝えるのが苦手（コミュニケーション能力の低下）。</li> <li>・あいさつが自分からできない。相手がしても返ってこない。無視。</li> </ul>
まとめ	<ul style="list-style-type: none"> <li>・幼稚園及び保育園に対する調査の回答と同様、我慢する力の不足、自我が強い、素直に話が聞けない、友達と一緒に遊べないなど、集団生活を送る上での様々なルールを身に付けられていない子どもが増えているという回答が多数見られた。また、挨拶ができない子どもが多いとの回答も見られた。</li> </ul>		

	小学校 校長、教諭	学童クラブ 職員	児童館 館長
<p>問3 幼児期に身につけておくべき「生きる力」について気になりますか。</p> <p>③学ぶ力をつけるために大事だと思うこと</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・安心できる環境と安定した心。</li> <li>・学ぶ必要があるという本人の実感と学びたいという意欲。</li> <li>・「ためすことによって学ぶ」というように、直接体験の場が少ないこと。</li> <li>・宿題や持ち物などの準備、親の関心</li> <li>・家庭での読み聞かせ・学習に向かう態度や姿勢</li> <li>・年齢に応じた学習習慣</li> <li>・児童に学力を身に付けさせる教師の授業力・聞く力(態度を含め)・話を静かに聞き、理解する力。しゃべりたくても我慢ができる。順番や発言を待つことができる。</li> <li>・失敗をおそれずにチャレンジすること。失敗することのおそれや初めてのことにに対する苦手意識が強い。</li> <li>・意欲、集中力・無関心、無気力を感じます。このあたりを高められたらと思います。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・日々の生活や体験を通じて学んでいく必要がある。親のしつけや関わり方がとても大事。</li> <li>・おじいさん、おばあさんやいろいろな人と関わり、叱られ、学び、感情が育っていくことが大事だと思います。</li> <li>・学ぶ力をつけることは、その物事への興味や探求心を育てることが大切だと思う。学ぶこと(勉強すること)がその子どもにとって、圧迫感を感じないように、「どうしてだろう?」「なぜなんだろう?」の気持ちをもたせるように、導いていくことが大切であると思う。</li> <li>・人の話を注意深く聞くこと。(2)</li> <li>・自分の考えで行動ができ、自分の意見を友達に伝えること。</li> <li>・コミュニケーションの能力。</li> <li>・親が教える(自分の名前、最低10まで数える)</li> <li>・失敗をしても大丈夫だという安心感をもたせ、さまざまなことを体験させる。</li> <li>・自分で考えて行動することができるように見守る。</li> <li>・子どものやってみたい、という気持ちを大切にすること。</li> <li>・子供の興味を頭から否定しない。</li> <li>・何事においても、やる前から諦める、また失敗を嫌がるので、とにかくチャレンジしてもらえよう学ぶ意欲を持ってもらうことが大事。なかなか自分でやる気になるのは難しいので、言葉かけやサポートは必要。</li> <li>・学童クラブでは、学ぶ力をつけるためには、「遊び」を通して、つかみ取っていくことが大事と考えている。遊びとは、強い興味や関心をもって、自分から進んで楽しもうと取り組むもの。遊びから楽しさや喜び、集中力を育み、主体性や積極性、意欲を引き出すと考えている。</li> <li>・色々なことにチャレンジすること。</li> <li>・多くのことを見て、経験すること</li> <li>・保護者の方の読み聞かせ</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・「学ぶ」ことは「楽しい」と感じる体験が大事。</li> <li>・学歴、資格などの損得勘定ではなく、自分のために必要と感じる体験が大事。</li> <li>・点数や評価にされずに、学ぶことができる体験も必要。</li> <li>・「学ぶ力」とは遊びの中で身に付くものだろう。</li> <li>・おままごとをしていて野菜や果物の名称を覚えていったり、音の出るおもちゃで自然に体を動かし、情緒を育んだり、また他の子がパズルをしていて面白そうだと興味をもち、やってみたり完成する喜びを感じたり、小学生がやっているカルタに入れてもらって、文字を少しずつ覚えたりしている。</li> <li>・遊戯室でドッジボールやバスケットボールをしている、小中学生を見てボールを投げたり、側転をしている女子の真似をしているつもりで寝転んでいる乳幼等、児童館の中だけでこんなにたくさんの育ちがみられる。地域に出れば、親が強制しなくとも、自然に周りの環境から学べる物を吸収して成長していく。</li> <li>・不便な思いをすること。直接体験や原体験で本物に触れ五感刺激すること。例えば火を起こし体験や農業体験を通してその野菜をその起こした火で調理するなどして達成感を味わう。プレーパーク。</li> </ul>
まとめ	<ul style="list-style-type: none"> <li>・失敗を恐れずにチャレンジする、やってみたいことを積極的に行うという回答や、コミュニケーション能力の向上が大切であるという回答が見られた。</li> </ul>		

	小学校 校長、教諭	学童クラブ 職員	児童館 館長
<p>問4 子どもが不安なく小学校生活をスタートできるために必要なこと、実際に行っているものは何ですか。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 幼、保、小の情報交換（2）</li> <li>・ 幼、保での保護者への啓蒙活動（小学校までに身に付けておくことなど）</li> <li>・ 幼・保と小の保育士、教員の連携。乗り入れ授業。できれば、現職のままでの互いの人事交流や1年間の派遣など。</li> <li>・ 園児による小学校生活の体験など交流をできるだけ行うこと。</li> <li>・ 幼稚園の教員、保育園の保育士と小学校教員の相互の参観及び交流を行うこと。</li> <li>・ 学校見学</li> <li>・ 小学校行事への関わり</li> <li>・ 生活ルールなどの共通化・幼・保・小での交流・学校訪問・見学</li> <li>・ 1年生の授業参観</li> <li>・ 保護者への啓発、地域の民生委員さん等との連携</li> <li>・ 幼稚園や保育園の先生方に小学校の生活や学習の様子を見ていただき、どのような内容を幼稚園や保育園でできるか、またはやっておくべきか実際の園の生活を土台に考えていただけるとありがたいです。実際、小学校、中学校においても感じており、少しずつ実行しているところです。</li> <li>・ 幼・保・小の教員の交流、共通理解</li> <li>・ 子供同士の交流活動を多くもつことだと思います。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ ケース会議を施設の枠を超えて実施していくこと。</li> <li>・ 入学前に小学校の一日体験などあったらよいかと思います。</li> <li>・ 子どもが不安になるということは、どのようなことであるのかをまず洗いだすことが大切であると思う。幼稚園、保育園と小学校の教育環境の相違により、不安な心が出てくるのであれば、小学校での授業体験などがあると思います。</li> <li>・ お互いの情報提供等の連携</li> <li>・ クラブによる説明会</li> <li>・ 希望があれば自由見学</li> <li>・ 友達をつくる</li> <li>・ 健康である</li> <li>・ 親の対応（遅刻、欠席などをしない）</li> <li>・ 清潔な服装</li> <li>・ 初めての場所や人に慣れるまで時間がかかるので、小学校と交流をもち子どもや先生方が双方に行き来する機会を増やす。小学校の模擬授業を体験させる。</li> <li>・ 学校生活について楽しいイメージがもてるような話を園や保護者がする。</li> <li>・ 学校を散歩のルートに加え、日ごろから児童が遊んでいる様子などを見せておく。</li> <li>・ 何らかの交流が事前にあれば、安心材料になるので必要。情報を共有できれば、環境が整えてあげられるので、スムーズにことが進む。</li> <li>・ 保育園とは、入所する前に保育園のお楽しみ会に参加する、保育園の児童を招待するなどの交流を行っている。また気になるお子さんについてはその都度お聞きしている。</li> <li>・ 小学校については、お便りの交換をしている。また、年に何度か連携や協力をお願いしているが、進展がない状況である。校長先生によっては情報交換ができない場合もある。</li> <li>・ 小学校との連携に繋がらない状況として、集団生活の目的や児童への支援についての考え方の違い、小学校側の学童に対する認識度の不足などが考えられる。具体的には、所管課の違いや個人情報問題がある。</li> <li>・ 学童クラブは生活の場であるため、児童の個人情報だけでなく、保護者とも直接接する機会が多い。今後、学童クラブで得られる児童の情報交換を関係各所と定期的に連携をすることが望ましいと考える。</li> <li>・ 事前に保育園に、入所予定の子どもたちの様子を聞きに行っています。（3）</li> <li>・ 保護者の方の十分な愛情</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 幼稚園、保育園、小学校の情報の共有</li> <li>・ P T A、町会などの新入生を迎える会など、上級生と出会う場をもつ（鍋2町会P T A歓送迎会）</li> <li>・ 児童館では、2歳児以上対象の「ちびっこひろば」という年間登録制の広場事業がある。目的が、幼児に集団で遊ぶ機会を与え、遊びを通して社会性の基礎を養うことや一年間、親子と交流していくことで地域の子育て活動に積極的に取り組めるようになることである。この中の班活動は、保護者が子どもたちの活動を計画設定し、自分たちが主になって進めていくことで、専門家の子育て支援を受け身でやってもらうだけではなく、自らが地域の中で子育てをしていくという意識が養われる。乳児期、幼児期、幼稚園、小学校、中学校という流れを一つ一つ区切らないで、川のような流れになり繋がっていくのが子育て、子育てになるのだろうと思う。子どもが不安定になるのは親の生き方、過ごし方にある。親も子も知り合いをつくり親子で活動するのは一生のうちにスポット的なものである。このような活動は少子化に加え、幼稚園のプレや保護者の仕事復帰による保育園児が増えたため、参加者が年々減っているのが現状であるが、児童館として力を入れたい事業の一つである。</li> <li>・ 保育団体連絡会での横のつながりによる各関係団体との情報交換や情報共有、そして一貫した教育方針やアプローチ法の共有など。</li> <li>・ 幼・保・小の子ども同士の交流活動。イベント。SSWとの定例会の実施。</li> </ul>
<p>まとめ</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 幼稚園及び保育園との連携が必要であるという回答が多く見られた。</li> </ul>		

	小学校 校長、教諭	学童クラブ 職員	児童館 館長
問5 「家庭の教育力」を高めるために重要なことは何だと思えますか。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・家庭の生活が安定すること。(家庭への金銭面での支援。子育て支援、福祉の充実)</li> <li>・学校教育への十分な予算配当。</li> <li>・園や学校、保育士、教員に「家庭の教育力」向上のために助言できるだけの、立場、資格を与えること。</li> <li>・どのように子育てしていけばよいかかわからない親が多いことから、行政が「親学」のような講座を設けて、親を教育していくこと。</li> <li>・学校教育への関心</li> <li>・家庭の教育環境の整備・家庭で担う役割についての最低限の共通理解(各家庭ごとの)</li> <li>・教育力の乏しい家庭に対する支援</li> <li>・放任にしないよう、お便り、声かけなどをしていく。</li> <li>・親自身の成長。親がゲームや携帯に夢中になっている。きちんとしたあいさつや社会生活を営むためのスキルを身に付けていない。親教育がまずは必要。</li> <li>・子育ての不安を解消できる支援・相談体制の確立と周知。特に周知は大切である。また、この親ではまずいという場合の介入の筋道をつくっておくべき。こんな時は子どもを引きはがして保護します、という周知も必要。</li> <li>・学校や園で親たちの絆や連携を深めていく取り組みを進めていく必要がある。親・家庭を孤立させないことが重要。</li> <li>・家庭の教育力が低下したのは、核家族化、地域とのつながりの欠如、家庭を大事にしない風潮、親になることへの自覚の欠如など多くの要因が日本の中に蔓延した結果である。よって遠回りのようであるが1つ1つを丁寧によりより形にしなければならない。しっかりした家庭にして、その中で育った子どもは家庭を大事にして自分の子どもを大事に教育する親になると思う。</li> <li>・保護者との対話、共通理解</li> <li>・家庭の方が学校のことに興味をもってくれること。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・学校等の教育機関から親へ発言できる場や機会を増やしていく必要がある。・悪いことをした時にはきちんと叱り、子どものいいなりばかりはよくないと思います。</li> <li>・父と母の両親だけでなく、おじいさんやおばあさん、地域の方々などと連携して子育てをしていくことだと思います。</li> <li>・保護者が子どもの得意なこと(学科)、また不得意なことを十分理解してあげることが大切であると思う。不得意なことが劣等感を生み出さないように、メンタル面からの支えも必要であると思う。</li> <li>・子どもと(家族)一緒にいる時間をできるだけつくる。</li> <li>・一緒にいろいろな経験をする。(一緒にお昼寝するもよし、お風呂呂に入るもよし、何でも)ただ、子どもにふさわしくない場合は別。時間帯にも考慮。</li> <li>・特別なこともよいが、日々の積み重ね。</li> <li>・子どもと遊ぶ(ハイキング、旅行、釣りなど)。</li> <li>・親が子どもと関わる時間を増やす。子どもと一緒に学び体験する時間をもつ。親に時間的、精神的ゆとりがないように感じます。子どもたちはもっと親と一緒にいたい、自分の話を聞いてほしい、と思っています。親子でゆっくりと家のこと、友だちや学校のこと、今興味を持っていること、話題のニュース等話し合う時間をもつことが大切だと思います。</li> <li>・幼いころから、子どもときちんと話をすることが大切だと思います。たくさんのお話をすることで、人の気持ちを考えたり、自分の気持ちを言葉で伝えたりする習慣が身につくと思います。またそのことで、学ぶ力や人とかかわる力もついてくると思います。</li> <li>・保護者に自信をもってもらい、家庭でのしつけや社会のマナーを教えることに取り組んでもらうことが重要だと思います。そのために必要な講座などの機会を設け、積極的に取り組んでもらえるようにすることが必要だと思います。</li> <li>・何か困ったときに相談できる身近な相談相手がいることも大事だと思います。</li> <li>・勉強だけでなく、社会で生きていくための基盤をつくる大事な学童期には、保護者が家庭でも道徳教育を行い、発達状況を理解し過剰な期待をしないで、発達の状況に合わせた適切な対応を心がけることが重要と考える。</li> <li>・まずは、保護者の不安等をなくすために、コミュニケーションをとり、悩みなど聞いてあげることなどが重要だと思います。その上で、参考になるような情報を必要ならば提供する。</li> <li>・十分な賃金補償と仕事に追われないゆとりが保護者の方に必要。テレビやゲームに子守をさせないこと。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・学校のテストの点数だけではなく、学校や地域、いろんな場面での子どものできたこと、トライした事がポジティブに親御さんに伝わるような取り組みが必要。</li> <li>・子どもは本来成長したい、学びたい、という力を持っていて、遊びなどを通して、表現していると思います。そのいろいろな場面を保護者にも知ってもらいたいと子どもは本来願っていると思います。その子どもの活躍の場、成長の場を多く増やし、それらで子どもの様子が保護者に伝わるようになれば、自然と、家庭でも、学習をしよう、それを見守ろう、というようになると思います。また、保護者の方の交流ができる場を増やすことも、総じて高まっていくと思います。</li> <li>・家庭の教育力」それはまさに「おはよう」「いただきます」「ごちそうさま」「おやすみなさい」等のあいさつをすることから始まり、毎日の生活の中にあるのだろう。</li> <li>・部屋を片付け、清潔にしていること、手を洗うこと、歯を磨くこと、入浴をすること、新聞や本を読む習慣、会話をすることなど、家庭の中で親が普通にしていることは全て子どもが自然に学んでいく。それを忙しい日々であっても、心がけて優しく穏やかな気持ちで家庭で生活することが重要なのではないだろうか。家族であっても、間違ったり迷惑を掛けてしまったときに「ごめんなさい」と言える気持ち、心を育むことが重要であると考えます。</li> <li>・しつけ。子どもの自立のために、放任でなく親がルールをしくのではなく、子供の主体性を伸ばす教育。そのためには親がその方法を学ぶ必要がある(親育て)</li> <li>・夫婦円満</li> </ul>
まとめ	<ul style="list-style-type: none"> <li>・親や家庭を孤立させないこと、地域との連携、保護者の交流が重要であるという回答が見られた。</li> </ul>		

	小学校 校長、教諭	学童クラブ 職員	児童館 館長
<p>問6 「地域の教育力」を高めるために重要なことは何だと思いますか。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>各家庭の教育力の向上。核になる人物がいればよいのだが、いない場合は行政が音頭取りをしていく必要がある。</li> <li>学校への関心と理解</li> <li>学校公開の充実・成功のイメージの共有。地域と学校、その他の機関がどのように協調し、どういう効果をあげることを望むのか。それが共通のものになっていないと「協力」が裏目に出るときすらあると思うので、はじめの段階でのすり合わせや、プロセスの共通理解が重要。</li> <li>地域の行事を活性化させる。また、魅力あるものにする。</li> <li>学校・園と地域社会との交流の深まりが必要。地域の方々子ども達を「我が地域の子」と感じ、学校や園にどんどんやってきて支援を行ってくださる姿を実現していく必要がある。</li> <li>そのためには、子どもたちと地域の方々のインタラクティブな協働・協力・貢献の関係が大切。学校は地域からの支援ばかりを求めているが学校からの地域貢献がなくては地域も動かない。ひいては地域の教育力も高まるベクトルをもてない。</li> <li>共助の精神を基本とした地域のネットワークをつくっていくことが大事だと思います。</li> <li>地域コミュニティの強化・普段から交流をもつこと。そして興味関心をもってもらふこと。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>町会や地域の行事に学校や教育機関がもっと積極的につながっていった、情報交換できる関係づくりをしていくことが重要だと思う。</li> <li>公園での禁止事項を減らすことかと思います。(ボールを使ってはいけないなど)・学校とは、子どもたちがもっている輝き(素質)を引き出し、さらに磨きをかける方法などを伝える場と思う。子どもたちの個性を伸ばすことが重要なことだと思います。</li> <li>近所の方々知り合い(顔見知り)になり、子どもたちが気になることをしていたら、気軽に声をかけられるような環境づくり。</li> <li>地域の方々の見守り、温かい気持ち、共に育てる意識。</li> <li>地域の皆さんが注意できること</li> <li>子どもだけ、親だけでなく親子で地域の中に入ることができる活動(幼稚園、保育園、小学校、子ども会、自治会が連携したお祭りや防災訓練等)を通して、子どもがいる家庭と地域とのつながりを強める。</li> <li>危険なことをしたり、喧嘩をしたりしていると声をかけてくださる方がいらっしゃいますが、現在の風潮として、声をかける見知らぬ大人は内容の良し悪しにかかわらず「不審者」と思われることが多いので、声をかけるのを躊躇してしまう方が多いと思います。地域の行事に参加して、顔なじみの大人を増やしておくとういと思います。</li> <li>放課後の下校の見守りなどを、地域の方に積極的に参加していただき、コミュニケーションを取る機会をつくってもらふこと、また、ボランティア活動等を通して、積極的に関わりをもっていたことが重要だと思います。</li> <li>「地域の教育力」を高めるためには、人と地域との繋がっていく力である。児童の保護者、学校、地域のさまざまな組織や団体が強く結ばれる事で、児童をサポートする力は高まる。児童の育ちの支援をするために関係機関と現場で起きている情報交換し、積極的にネットワークを広げて、地域資源を増やしていくことが重要である。</li> <li>地域との交流の仲介役になれるような行事等をし、子どもと地域の方が会話をする機会をつくると、地域の方が気にかけてくれるように思います。</li> <li>昔のような縦の関係や地域の見守り</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>地域の中で、子どものためならば一肌脱ぐ、という方は多くいます。その方たちと、子どもとの出会う場をどうコーディネートしていくかが大事。また、そういったことを各施設が取り組むことを今も行っていますが、市内施設の全体のコーディネートだったり、情報共有、連携なども必要だと感じている。</li> <li>地域に出ていくこと、そして、子育てを自分だけで抱えないで地域に頼ることも大切であると思う。核家族の現代、子どもは自分の家庭だけで育つということは、それが当たり前であり、正解であり、それに逸れる事に立ち向かえなくなってしまうだろう。地域で、たくさんの方々に関わっていると、「あんな人もいる」「こういうこともある」「あれ？家とは違うことたくさんあっていいんだ！」と知らず知らずに身につけていく教育力とはまさに“地域”で育てていくものだろう。子育てをしている時にふと疲れてしまったり、心の不安定を抱えた時に誰かに相談したり、預かってもらったりした時に、子どももそこで色々な地域の方と出会い、知らなかったことを学ぶことができる。人と人が繋がった、地域の力は素晴らしい。また、地域のお祭りや、昔ながらの行事はそこに住んで関わることでお神輿を担いだり、参加して素晴らしい体験ができるのだろう。体験と経験、繋がりは地域のまさに教育力に値するのだろう。</li> <li>地域の行事や子ども会、自治会、町会などに参加や加入し、地域ぐるみで子育てをし、子どもたちと一緒に成長する姿勢。孤立化しないように、多世代交流の場をつくる。</li> <li>山形県のように「教育のまち」とうたわれるような施策や政策を市民ともにつくり、まちや地域をつくっていく。</li> </ul>
<p>まとめ</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>地域の方々の見守りや、大人と子どもが繋がることによる地域コミュニティの向上、学校への関心と理解という回答が見られた。</li> </ul>		

	小学校 校長、教諭	学童クラブ 職員	児童館 館長
<p>問7 市民が子育てをしていて困っていることは何だと思いますか。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・金銭面の支援が少ない。</li> <li>・遊び場が少ない。公園や公共施設などを充実させる。</li> <li>・子どもにどのように接してよいのかわからないこと。</li> <li>・子どもを指導できないこと。</li> <li>・子育てについての相談</li> <li>・無料で楽しめる施設の充実</li> <li>・子どもを預けられる施設やサービス（保育園・幼稚園以外で）</li> <li>・経済的な問題</li> <li>・子どもの成長発達に伴う変化や特性の理解と対応</li> <li>・何より子どもの成長発達の段階に応じた丁寧な対応が必要だということを知らない実態</li> <li>・ふっさこの広場は様々な意味合いですばらしい取り組みだと思います。</li> <li>・学校や園・児童館・ふっさこ等が親向けの情報発信や関わりを広げ深める必要があると思います。</li> <li>・孤立化</li> <li>・簡単な相談をする場が少ないように思います。仮にあっても行きづらかったり、話しづらかったりすると思います。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・金銭面での負担、具体的な自治体のサービスをどのように利用していけばいいか理解していない。</li> <li>・児童館で、小・中・高校生の保護者と子どもと一緒に自由に使えるスペースがあるとよいと言われたことがあります。</li> <li>・中学校の給食の実現は早めにしてほしかったとのこと。</li> <li>・通学路のガードレールがなかったり狭かったりが怖いとのこと。</li> <li>・先日、私の子ども（小6）の卒業式に列席しましたが、卒業する子どもたち一人一人が小学校で学んだこと（協力すること、あらかじめで取り組むことなど）を中学生になるにあたって、自分の気持ちを述べていた。これを聞いたとき、自分の子どもの成長ぶりを体感し、とても感動しました。子どもたちにその子なりの道を見つけていただきとても感謝しております。今後もこのような取り組みを続けていっていただきたいと思います。</li> <li>・親が忙しく、ゆったりゆっくり子どもと接することが難しいこと。（2）</li> <li>・自分の時間がない。</li> <li>・保護者の発散の場がない。</li> <li>・育児の負担がかかる。</li> <li>・それぞれの立場により、対応が異なるが子どもたちの立場でも少し考えてもらえると長い目で見たよりよい支援に繋がると思う。</li> <li>・気軽に行ける場所</li> <li>・共稼ぎの家庭が多いと思うので、保護者が急な用事（残業、事故や病気等）で子どもの面倒を見られなくなった時の預け先がない。（2）</li> <li>・子どもが病気になった時にも、保護者の代わりに看護してくれる人がいない。</li> <li>・子育ての中で気軽に悩みを相談できる人がいない。（2）</li> <li>・休日や時間外に、小児科医が常駐している病院があるとよい。</li> <li>・福祉バスに、妊婦さんや乳幼児を連れた方が乗れるとよい。</li> <li>・共働きまたは父子母子家庭で仕事が忙しく、時間がない中子育てをしていることが多いので、子育てに余裕がないことが困っていることではないかと思います。</li> <li>・子育てサービスを利用する場は多いが、内容が類似している。そのため、どこの施設を利用したらいいのか、どの講座を利用したらいいのか迷う。各施設の特徴のあるところをもう少し明確にした方が利用しやすい。また、同じ内容のものは統合した方がいいのではないかと思う。</li> <li>・祖父母が遠方において、緊急時の預け先がない等。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・不登校の子の居場所（摘要指導教室にも通えない重度の子のリハビリ的な場所など）</li> <li>・児童館に来館する親子は、オシャレで笑顔で元気！！一見、そう見える。しかし、誰もが子育てに悩んでいる、疲れている。生まれた可愛い我が子、しかし時には「ひとりにして・・・疲れた！」という心の悲鳴が聞こえる。毎日見ているとそう感じる。例えば、保健センターに健診に行く前に立ち寄ってくれる母親たちは「さあ、今日は我が子が最高だと言ってもらいたい」といういつもと違った勝負をしにいくような顔で出かける。「子どもはそうやって生まれた時からテストを受けるのよ。」とため息をついて言う母親がいた。そうじゃない・・・それじゃあいけない。なにかを変えていかないと・・・と実感したりする。保護者と子どもたちを地域で支え、間違っていないんだよ！と言ってあげられるような場所が、児童館であると感じる。親子で過ごす、人生の中でほんの一瞬の時間を見守っていきたい。そして、また成長の中で思春期を迎え、親子でそれに立ち向かわなければならなくなったとき、気軽に相談できる場所にしたい。「あの赤ちゃんがもう思春期の・・・」と長く優しい目で家族を支えて行ける場所になればと考える。繋がっていくことを市民は求めているのだと思う。</li> <li>・孤立化世帯。母子、父子家庭世帯などはパートナーや親が身近にいないため子育てを一人で背負ってしまっている。また気軽になんとも言える、聞ける人が身近にいなかったり、引きこもってしまい、子どもにあたってしまう。父親の子育て参加の少なさ。（マザリング）</li> <li>・子どもが幼児期までは住んでいるが、小学校入学になる段階で他市に引っ越してしまう世帯があると耳にしたことがある。理由を聞くと福生市の小学校の学力が低いことが理由とのこと。</li> </ul>
<p>まとめ</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・相談体制の充実や、子どもが病気になった際、子どもを看てもらえるサービスの提供という回答が見られた。</li> </ul>		

	小学校 校長、教諭	学童クラブ 職員	児童館 館長
問8 子育て支援 についての意見	<ul style="list-style-type: none"> <li>・園や学校は信用でき、安心して子どもを預けられる場所だという意識をもってもらえるように、行政が園や学校に協力してほしい。</li> <li>・子育てに関する市の部署がいくつもあり、縦割りなので、横のつながりをもつ子育て教育に関して総合して担当する部署があるとよい。</li> <li>・行政側の支援態勢が部課ごとになってしまう傾向が見られる。横のつながりをもっと緊密に行うことが必要に思う。</li> <li>・紐を結ぶなどの経験が少ない。我が子の保育園では、年中から風呂敷を使うそうです。このような経験を積ませることも大切だと思う。</li> <li>・自らの力でしっかり生活し、家庭を築いていける人間を育てていくことが基本になり、その上で地域のネットワークや行政の子育て支援がサポートする形にしていくことが大事だと思います。</li> <li>・何が必要なのか精査する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・行き過ぎた支援は親の家庭での教育力を低下させてしまう恐れがある一方で、本当に支援が必要な家庭には支援が行き届いていないケースも感じる。親自体のモラルの低下も気になる部分が多い。</li> <li>・ふわふわ便りは無料なのにとっても素晴らしいと思います。お便りを置いておくとすぐなくなるほど大人気です。臨床心理士の方が幼稚園・保育園だけでなく、学童クラブも巡回してくれるということで期待しています。</li> <li>・子育てとは、子どもだけが育つのではなく、子どもと一緒に親も育つチャンスである。子どもと一緒に喜び、悲しみ、楽しみながら、信頼や母性、親としての責任と自覚、自信ができてくる。そのためには、紆余曲折あるなかで、その時々にあった支援が必要となってくる。子育て支援においては、今後もますます需要が多くなることが予想され、その時々ニーズに応じた事業展開が必要だと考える。</li> <li>・親子とも忙しすぎるように感じています。気持ちにゆとりがないために、他人を思いやることができない、自分のことだけで精一杯のようです。親も子も自分の話を聞いて欲しい、といった要望があるように感じます。悩みを抱えていても、誰に打ち明けられないのかかわからない、という親が多いようにも思います。物質的には恵まれているが心が満たされていない子どもが増えてきています。子育て支援にはメンタルの部分にも重点を置いてほしいと思います。</li> <li>・子育ての悩みを相談できる機関はありますが、電話をしたり訪問したりする勇気がもてない方もいらっしゃると思います。職員の方や、児童委員の方が公園等を時々巡回して、遊びに来ている保護者の方と触れ合い、何気ない会話の中から悩みをくみ取ることができないでしょうか。親しみやすさがあると悩みを打ち明けやすくなるかもしれません。</li> <li>・子どもたちが安心して健やかな成長ができるような安全な場所と、よりよいサービスがこれからも必要だと思います。</li> <li>・障害児、もしくは気になる児童への対応を包括的にサポートできる機関が欲しい。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・福生市保育団体連絡会でも話しに上がったことですが、市内の保育園、幼稚園、児童館、福祉センター、子育てサロンなどさまざまなところで、未就学児に向けた事業を行っているが、どこも参加者減少しているようで、理由としては、子どもの減少もあるのですが、若干取り合いのような構図になっているところもあります。事業が多数あり、充実していることはよいことだと思うのですが、各施設や地域の特色や強みを活かした市内のトータル的なコーディネートの必要だと感じます。</li> <li>・児童館には、0歳から18歳そしてその保護者という幅広い地域の方々が来館する。何かを求めて来館してくれる人たち、何かが必要ではない。何か教えてほしいわけではない、なんだろう？と考える。それは「心」「ぬくもり」「温かさ」「心地よさ」「居場所」なんだろうと思う。子育て支援は、気負ってするものではないと考えている。「疲れた」「つらい」「子育てから逃げたい」と本音を言える場はそうない。しかし、子どもを中心に笑顔で話をしながら、元気になっていく母親を感じることができる。改めて我が子の子育てに立ち向かおうという顔になって帰っていく母親たち、「また来ますね」と笑顔で子どもを連れてきた母親のちょっと恥ずかしそうな後ろ姿をこれからも見送っていきたいと思う。子育て支援は今後、永遠の課題だと考えている。また、それに関わる機関の横の繋がりが強化できればと切実に思う。</li> </ul>
まとめ	<ul style="list-style-type: none"> <li>・施策や事業ごとに縦割りとなっている行政の緊密な連携や、親子ともにメンタル面に重点を置き、気軽に相談ができる体制の整備が必要であるという回答が見られた。</li> </ul>		